

平成25年度 京丹後市当初予算

～ “北近畿新時代”における豊かな繁栄と
市民総幸福の限りない増進・発展への挑戦～
- 丹後建国1300年の節目に -

平成25年2月22日
京丹後市役所

国においては、昨年の衆議院選挙により政権交代が行われ、日本経済再生に向けた取り組みを推進するため、平成25年度予算を「15ヵ月予算」の考え方で、平成24年度第1次補正予算と合わせ、景気の下支えを行い、切れ目のない経済対策を積極的に実施することとされています。

本市におきましても、依然として大変厳しい経済・雇用情勢の中にあり、市民生活を守るため、さまざまな施策を懸命に実施していますが、こういった厳しい状況だからこそ、本市の未来発展を展望するにあたり、短期並びに中長期の施策を巧みに組み合わせ、本市の輝かしい未来を創りあげていく必要があると考えております。

こうした中で、平成25年度は、合併10年目を迎えるとともに、歴史上「丹後国」が誕生した西暦713年から1300年となります。この「丹後建国1300年」という記念すべき年度を、本市が新たな方向へ向かう節目と捉え、新しく、そして豊かな京丹後の未来づくりを推進していきたいと考えています。

また、舞鶴港の拠点港化とともに、来る平成26年度には、待望の京都縦貫自動車道や舞鶴若狭道小浜・鶴賀間の全線開通、平成28年度には本市の大宮町森本まで延伸され、京都、大阪、名古屋など大都市圏との交通アクセスが飛躍的に向上することもあり、『北近畿新時代』の到来を迎えます。この機会を最大限に活かしながら、先人達が営々と築かれてきた伝統産業を引き続き大切に育み、この上に、本市の豊かな自然環境や再生可能エネルギー経済の先進となるような、京丹後型の“北近畿新時代における新グリーン経済の構築”を市民の皆さんとともに、創造していきたいと考えています。

これらのさまざまな施策を実施していく中で、本市の未来発展の一番の基礎となる市民それぞれの真の喜びと幸福、市民総幸福の限りない増進と発展、また、市民総参加でのまちづくりのため、人と人との絆を大切につなげていく“大きな和”を創るまちづくりを進めることを目指していきます。

こうした思いの中で編成した平成25年度一般会計予算は、市長選挙後、初めての本格予算で、予算総額314億円、骨格予算であった前年度当初予算と比べ7億7,000万円、2.5%増の予算とじていますが、肉付け補正後の予算額316億1,978万円と比べると2億1,978万円、0.7%減の予算となっています。

歳入では、長引く景気低迷の中、市税収入が伸び悩み、地方交付税についても、国の地方財政対策での地方交付税総額が、地方税収の増や地方公務員給与の引き下げなどが盛り込まれたこともあり、6年ぶりに前年度を下回るなど、本市にとって、大変厳しい状況のため、財政調整基金や地域振興基金などの繰入金により財源を確保し、予算を調整しています。

このように厳しい状況下の中で、歳出では、新火葬場、統合保育所、学校の耐震化・再配置、消防救急無線のデジタル化などの大型事業を実施するとともに、本市が未来へ発展するための「礎」となる予算を編成しています。また、持続可能でかつ健全な財政運営のため、合併特例措置逡減対策準備基金への積立てをはじめ、行財政改革を積極的に推進するとともに、歳出の抑制にも留意し、可能な限りではございますがメリハリを付けた編成に努めています。

次に、平成25年度一般会計予算の視点としましては、「産業・雇用の全力確保と未来発展」、「特色や魅力を活かした未来づくり」、「未来へ向けたひとづくり」、「安心・安全のための社会基盤づくり」、「健全な行財政基盤づくり」の5つを掲げています。

まず、1点目の『産業・雇用の全力確保と未来発展』であります。

市民の生活や雇用を守ることを目的に、各種産業の本格的で持続可能な発展と雇用の一層の充実を目指すこととしています。そのために、「京丹後市新経済戦略検討会議」を設置し、この3月末を目途に一定の方向性をとりまとめ、本市の新しい戦略を盛り込んだ総合的な条例を平成25年度の早い時期に議会上程する予定としています。しかしながら、現在、本市の経済・雇用情勢は大変厳しいため、平成25年度当初では、中小企業緊急雇用安定助成金、あんしん借換資金等利子補給、信用保証料補助金、新分野・ビジネス開拓推進、新事業・ビジネスマッチングの推進支援などを継続実施するとともに、未来の産業・雇用発展のために、商工分野に「企業立地推進専門委員」、観光分野に「インバウンド推進専門委員」並びに「政策企画委員」を配置するなど、本市の商工・観光分野の更なる発展を目指します。また、都市部における丹後の食の魅力発信などの取り組みを行う6次産業推進、市内農林水産物の地産地消、地産都消を推進するための農産物流通対策事業補助金、地域ブランド連携協議会による首都圏での「地域ブランドプロモーション情報発信事業」への参加、網野駅構内へ

の（仮称）「観光情報センター」設置による観光サービスの向上並びに本市の観光振興の中核を担う京丹後市観光協会の運営支援、フィルムコミッションによる交流人口の拡大、有害鳥獣被害対策などを実施します。

次に2点目の、「特色や魅力を活かした未来づくり」でございます。

本市には、豊かな海、山、里の自然や健康長寿、誇らしい歴史など素晴らしい魅力が溢れており、これら全国に誇れる強みを活かした取り組みを一層推進する必要があります。そのため、山陰海岸ジオパークによる観光振興をより強力に推進するとともに、あわせて琴引浜に代表される素晴らしい海岸保全の取り組みを広げ、一年中砂浜がにぎわう「日本一の砂浜海岸」を目指します。また同時に、久美浜小天橋から網野町浜詰までの約8 km に及ぶ日本有数の砂浜海岸線の魅力を最大限に引き出すための遊歩道等の整備検討にも着手し、その実現を目指します。他方、竹野川等の河川堤防を活用した植樹・植栽など「花いっぱい運動」を地域の皆さんと一緒に推していきます。歴史・文化の面では、「丹後建国1300年」を契機とした取り組みを積極的に推進するのをはじめ、平成26年度末に完成予定の京都縦貫自動車道の開通にあわせ、丹後の文化財を集めた展覧会の準備なども進めます。また、“ゼロ予算”として、本市出身の偉人の顕彰等を図る仕組み、並びに（仮称）「郷土偉人館」の整備検討も庁内で進めてまいります。

環境の分野では、「再生可能エネルギー」の重要性が全国的に高まっている中、本市の総合計画では、一早く“循環環境都市”を基本方針の一つに掲げ、積極的に取り組んでまいりました。こうした中、平成25年度は、エコエネルギーセンターを活用した電気エネルギーと液肥肥料による循環型農業のさらなる推進を目指すこととしており、平成24年度一般会計補正予算（第6号）でも、京都府と共同で実施します（仮称）「京丹後農業経営実践型学舎」推進事業においても、液肥の成果検証を行い、国営農地を中心とした活用を積極的に図ってまいります。また、（仮称）「生ごみ資源化・ゼロエミッション推進検討委員会」で市内から排出される生ごみ資源化への実現化検討、昨年秋に試験的に実施致しました「木の駅プロジェクト」の事業継続支援、民間での太陽光発電や間伐材の再資源化などを支援するための「再生可能エネルギー導入促進会議」の設置など、“京丹後型スマートシティー”構築へ向け、具体的な施策を進めていきます。

次に3点目の「未来へ向けたひとづくり」でございます。

さまざまな取り組みを進めるためには、それらを行う「ひと」に依存する割合が高いと考えています。「ひとの力・能力は無限」であり、また、一人では弱い力であっても、それが束になり、重なり合うことで数倍の力が生まれると言われていることが

ら、そのお力を伸ばすお手伝いや仕組みをご提供することが、行政の役割りの一つであると考えています。

個々の分野では、“教育立市”を目指す「教育のまちづくり」では、その基本となる「京丹後市教育振興計画」の策定準備をはじめ、「教育と学びのまち 京丹後」の体制整備、教育支援センターの運営、小・中一貫教育、学校支援ボランティアの取り組みなどを推進します。また、ハード面では、統合保育所、小中学校の再配置や耐震化なども、引き続き計画に沿って実施することとしております。

「はたらく力を高める」関係では、働く意欲のある方を支援するため、「京丹後市産業人材育成大学」(ポータルサイト)の開設による産業人材の育成をはじめ、職業能力向上支援補助金、職業訓練実施事業補助金、就労支援の面接相談会の開催、商工業支援補助金を活用した起業家支援などを引き続き実施するとともに、就労支援としての放課後児童クラブ、預かり保育などの子育て支援も継続実施します。また、市役所職員の研修にも「政策力養成学校」を開設し、職員の能力向上、ひいては市民サービスの向上を目指します。

生涯現役の関係では、百歳健康長寿社会の推進に加えて、誰もが生涯現役で活躍できるようなまちを目指し、「生涯現役自治体サミット・健康大長寿のさとづくりシンポジウム」をはじめ、長寿食レシピ集の作成、旧町域ごとの取り組みを再編した「京丹後市高齢者大学」の創設、老人クラブの活性化、シルバー人材センターの取り組み支援などを行います。

「スポーツ・交流」の関係では、平成25年度から商工観光部内を再編し、新たに「スポーツ観光・交流課」を設置することとしており、丹後100kmウルトラマラソン大会、関西学生対校駅伝競走大会などスポーツイベントの開催を支援するとともに、交流人口の増加や受入体制の整備により、その波及効果を楽しむことができる仕組みを考えてまいります。また同時に、観光誘客の増加と都市部住民との交流を図り、四季型・滞在型観光の推進も図ってまいります。

次に4点目の「安心・安全のための社会基盤づくり」でございます。

本市の社会基盤は、まだまだ脆弱であり、今後も継続的な整備が必要で、それには、ソフト・ハード両面の整備が必要であると考えています。

ソフトで最も重要なものの一つは、「支えあいの仕組みづくり」であります。これまでは、市民相談、多重債務相談、消費生活相談、「くらし」と「しごと」の寄り添い支援センターなどの相談窓口があり、それぞれ連携を図りながら、相談に対応していましたが、相談場所が異なるため相談者にとってご不便をお掛けしていた場合もありました。そこで、現在の寄り添い支援センターを改造し、これらの相談をワンストップでできる(仮称)“「くらし」と「しごと」の総合サポートセンター”を設置し、

市民相談の抜本的な充実を図ってまいります。障害者の社会参加・社会進出の関係では、新たに、障害者の方の就労・職場実習場の確保、作業所製品等の販売促進に繋げるために、複数の共同作業所などで構成される連絡協議会が主体となり、市内の大型店舗へ“市民ぐるみでの常設販売所（店舗）”の設置・運営を支援します。自殺予防の関係では、これまでの取り組みに加え、ゼロ予算として、（仮称）「自殺のないまちづくり推進条例」の制定へ向けた検討、「自殺のないまちづくり行動計画」の策定、市全職員を対象とした「ゲートキーパー」の実現に向けた取り組みを実施します。この他にも、子ども医療費の中学生卒業までの現物給付化、峰山幼稚園での3歳児受け入れ、市立病院中期計画の検討、医師確保のための医療確保奨学金の貸し付け、自主防災組織の組織化促進なども実施します。

また、「市民協働」の分野では、市民力活性化推進プロジェクト事業補助金での東日本大震災の災害支援活動の継続支援をはじめ、京丹後型の水と緑の里・コミュニティビジネス支援条例の制定検討、慶応義塾大学との連携による地域資源活用ビジネスの創出、市民局と地域住民と一緒に実施する「地域協働型小規模公共事業」の取り組み、ゼロ予算として、まちづくり青年塾の開催などを行い、市民協働のまちづくりを推進します。

ハード関係では、高齢者世帯の下水道接続推進のため、水洗化推進支援事業補助金に高齢者世帯分を創設するほか、新火葬場の建設、網野地域の内水処理対策、市道・河川改修事業、防犯灯のLED化、浜詰地区の電線の無電中化、木造住宅の耐震化支援などを実施します。また、公共交通の分野では、平成25年10月からは京丹後市では既に実施している上限200円バスが2市2町に拡大（予定）、KTR高齢者片道上限200円レールの通年実施など、公共交通の利用促進と基盤整備をより一層推進します。

最後、5点目の「健全な行財政基盤づくり」でございます。

本市の普通交付税は、2年後の平成27年度から合併算定替の逡減が始まることから、現状では、本市の財政状況はより一層厳しくなることが予想されるため、行財政改革を不断に行い、急激な市民サービスの低下を抑制するとともに、行政としての基盤・機能もしっかりと維持していかなければなりません。

行政基盤では、昨年から各市民局に配置しています「地域にぎわいづくり推進員」が各市民局と一緒にあって、地域自治活動の活性化と市民局のにぎわいづくりを引き続き推進するとともに、市民とさまざまな形態で対話を図ってまいります。また、網野庁舎本館と弥栄庁舎の2つの庁舎について耐震診断を行い、その方向性を検討する材料としたいと考えています。また、議会の会議録の検索システムについても、市民の皆さまが利用しやすいシステムの導入となりますので、これにより、ますます市政

や議会に関心をお寄せいただき、本市のより良いまちづくりに繋がることを期待しています。

他方、財政基盤については、財政の健全性を確保しつつ、持続可能な財政構造構築のため、合併特例措置逓減対策準備基金及び地域振興基金へ各 5 億円を積み立てるほか、税・料のコンビニ収納、不要物品のインターネット公売、未利用財産の売却などにより、財源確保に努めるとともに、京都地方税機構とも連携し、税負担の公平性の確保をより一層目指します。また、平成 25 年度は、多くの大型の建設事業を予定していますが、国府制度の積極活用や有利な地方債の発行などにより、財政健全化指標に留意しながら、事業実施に努めてまいります。

以上、これら 5 つの視点を大きな柱とし、『～ “北近畿新時代” における豊かな繁栄と市民総幸福の限りない増進・発展への挑戦～』を目指し、副題として「 - 丹後建国 1300 年の節目に - 」とした予算を編成しました。

平成 25 年度は、「合併 10 年目」、「丹後建国 1300 年」を迎える中で、本市が今後向かうべき方向性を示す「第 2 次京丹後市総合計画」並びに「第 3 次京丹後市行財政改革大綱」の準備を始める年度でもあります。こういう大きな節目の年に、新たなまちづくりの参考とするため、市民の幸福と幸福のまちづくりに関する調査なども行い、市民のお考えを可能な限り市政に反映していき、市民の皆さまが幸福を感じていただける京丹後市を目指してまいりたいと考えています。

また、京丹後市には、一般会計の他に 13 の特別会計と水道事業、病院事業という 2 つの企業会計を設置しています。

特別会計の予算総額は、197 億 2,780 万円で前年度 193 億 4,370 万円と比べ 3 億 8,410 万円、2.0%の増額としています。

また、企業会計の予算総額は、84 億 7,643 万円で前年度 86 億 9,059 万円と比べ 2 億 1,416 万円、2.5%の減額となっています。

配付資料

- 資料 平成 25 年度一般会計当初予算案の概要（パワーポイント版）
- 資料 平成 25 年度一般会計当初予算の概要（予算規模等数値関係編）
- 資料 平成 25 年度特別会計及び企業会計の主な事業内容
 - ・平成 25 年度一般会計予算書
 - ・平成 25 年度一般会計予算説明資料
 - ・平成 25 年度特別会計予算書